

ヨハネ2：23-3：36「人は新しく生まれなければならない」

2:23 イエスが、過越の祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの人々が、イエスの行われたしるしを見て、御名を信じた。2:24 しかし、イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり、2:25 また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。3:1 さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。3:2 この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」3:3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければならない、神の国を見ることはできません。」3:4 ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができますようか。」3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければならない、神の国に入ることができません。3:6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。3:7 あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。3:8 風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」3:9 ニコデモは答えて言った。「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか。」3:10 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。3:11 まことに、まことに、あなたに告げます。わたしたちは、知っていることを話し、見たことをあかししているのに、あなたがたは、わたしたちのあかしを受け入れません。3:12 あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。3:13 だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。3:18 御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったもので、すでにさばかれています。3:19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。3:20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。3:21 しかし、真理を行う者は、光のほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。3:22 その後、イエスは弟子たちと、ユダヤの地に行き、彼らとともにそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。3:23 一方ヨハネもサリムに近いアイノンでバプテスマを授けていた。そこには水が多かったからである。人々は次々にやって来て、バプテスマを受けていた。3:24 ——ヨハネは、まだ投獄されていなかったからである——3:25 それで、ヨハネの弟子たちが、あるユダヤ人ときよめについて論議した。3:26 彼らはヨハネのところに来て言った。「先生。見てください。ヨルダンの向こう岸であなたといっしょにいて、あなたが証言なさったあの方が、バプテスマを授けておられます。そして、みなあの方のほうへ行きます。」3:27 ヨハネは答えて言った。「人は、天から与えられるのでなければ、何も受けることはできません。3:28 あなたがたこそ、『私はキリストではなく、その前に遣わされた者である』と私が言ったことの証人です。3:29 花嫁を迎える者は花婿です。そこにおいて、花婿のことに耳を傾けているその友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。それで、私もその喜びで満たされているのです。3:30 あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。」3:31 上から来る方は、すべてのものの上におられ、地から出る者は地に属し、地のことばを話す。天から来る方は、すべてのものの上におられる。3:32 この方は見たこと、また聞いたことをあかしされるが、だれもそのあかしを受け入れない。3:33 そのあかしを受け入れた者は、神は真実であるということに確認の印を押したのである。3:34 神がお遣わしになった方は、神のことばを話される。神が御霊を無限に与えられるからである。3:35 父は御子を愛しておられ、万物を御子の手にお渡しになった。3:36 御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。

導入

これまでの学びで、ヨハネの福音書が記された目的は、人がイエスを神の子として信じ、イエスの御名にある新しいのちにあずかることだとわかりました。

ヨハネは、イエスを「ことば」と呼びました。旧約聖書で天地創造にかかわるすべての神の業を言い表すのに、「ことば」が最適な単語だったからです。また、バプテスマのヨハネがイエスを世の中の人々に紹介するにあたり、世の罪を取り除く神の小羊と述べたこともわかりました。ヨハネは、福音書の読み手が旧約聖書のいけにえの制度について知識があるという前提でこう語りました。イエスは聖霊によってバプテスマを授けるお方だとも言いました。

最初の弟子を呼び寄せられた際、イエスは神のご性質をお示しになりました。そのご性質とは、イエスが全知全能で遍在であられるということです。

先週の学びで、イエスの母マリヤがイエスを神の子として信じたことがわかりました。また、イエスが宗教を嫌われることもわかりました。中でも、神の家を汚すことをとくに嫌われます。

今週も、ひきつづき学びを進めます。今日は2：23-3：36です。

この個所で、おもに4つの重要な事柄を学びます。

1. 神の御国に入るためには、新生が不可欠である。
2. 新生は神の御業である。神が新しく生まれさせてくださる。
3. 新生は、神の御子をとおしてのみ可能である。新しいのちを受けるには、そのお方を信じなければならぬ。
4. 信仰の必要性と人が信仰を拒む理由。（イエスによる説明）

1. 神の御国に入るためには、新生が不可欠である。—2：23-3：3

今日の聖書個所を2章23節から始めたのは、イエスが人の心をご存じだとヨハネが言っているからです。

イエスが奇跡を起こすのを見た人々はイエスを信じましたが、心が自動的に変わったわけではありません。この世に生まれたすべての人の罪深い性質をイエスをご存知でした。

ロマ 3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

ロマ 5:12 そういって、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

イエスは、奇跡を起こすために十字架上で死ぬ必要はありませんでしたが、私たちのような人間の心を変えるために、十字架上で死なれる必要がありました。

ニコデモはイエスの奇跡を見て、興味を持ちました。ニコデモはパリサイ人です。パリサイ派とは、分離主義者という意味です。墮落したイスラエルの民を立ち返らせようとする信心深い人々でした。イスラエルの民の間にはびこる罪深い習慣に異議を唱える「善い人たち」だったわけです。クリスチャンは聖書を読んで、ルカ18：11-12のようにパリサイ人を見下す傾向があります。しかし、彼らは当時、信仰の英雄でした。パリサイ人は国のあちこちで会堂を建て、神の律法を説いてユダヤ人の人々の心をつかみました。「宗教」が人を救えるのなら、ニコデモをはじめパリサイ人たちは多大な貢献をしたと言えます。ですから、あまり彼らを非難してはいけません。

ただし、ニコデモは「宗教」に問題があることに気づいたのでしょう。それは、宗教が彼の心を変えることはできないということです。イエスの心が人とは違うことに気づいたのかもしれない。どういう理由にせよ、彼は夜にイエスを訪ねました。群衆のいないときに一对一で話したい

と思ったのでしょうか。または、イエスといっしょにいるところを人に見られなくなかったのでしょうか。

ニコデモは、イエスが神のもとから来られた教師だと認めました。これに対してイエスはすぐさま、ニコデモの心にある問題を指摘されます。神の御国を見るには、新しく生まれなければならないとおっしゃったのです。

ニコデモは何も知らない人ではありません。イスラエルの歴史も知っていたでしょうし、預言の書を読んだことがあったでしょう。エゼキエルやイザヤの書も知っていたはずですが、ですから、人は不完全な存在で、神の基準に達することができないということも知っていました。創世記の天地創造の話や、ユダヤ民族の歴史も知っていました。エジプトでの40年にわたる奴隷生活や、荒野で40年間過ごしたこと、ヨシュアが約束の地を勝ち取る際に直面した問題、またイスラエルの士師や王が抱えた問題についても知識があったでしょう。ニコデモは多くの知識を持つ頭の良い人でした。宗教的な人はたいてい知識に長けていますが、足りないものがひとつあります。それは、自分の罪の問題、他の人の罪の問題を直視できないことです。

ニコデモは、罪を解決する方法はないとわかっていたのでしょうか。自分が宗教的であっても、罪を解決できなかったからです。そこで、イエスの話を聞くことにしました。イエスが、罪の解決法や神の御国に入る条件について語っていたからです。

今週、日本では多くの中学生が高校受験をします。合格ラインがどのあたりか私はまったく知りませんが、100点でないことは確かです。これに対し、神の御国に入る合格ラインは、聖さ100点です。自分は100%聖いと言える人は誰もいません。誰もが神の基準から外れたことがあります。自力で神の御国に入れる人はいないのです。今日読んだ箇所には、天国に行きたければ新しく生まれなければならないと明確に記されていました。100%の聖さをどこからか手に入れる必要があるのです。どこでそのような聖さを手に入れるのでしょうか。買うことも稼ぐこともできません。

ニコデモは、自らの罪を解決する力がないことを知り、助けてくれそうな人と話そうと出かけました。宗教が期待に届いてくれなかったのが、イエスが何かしてくれるのかニコデモは確かめに行きました。

皆さんの中には、これまで何度となく神社やお寺に行ったという方もおられるでしょう。お賽銭を入れ、手を合わせます。けれども、お寺や神社に行っても、心の奥にあるニーズは満たされず、空しさを抱えたままでしょうか。あなたの内側にあるたましいを満たしてくれる何か、ずっと続くもの、本物と呼べるものを求めて心がうずいているのではありませんか。もし自分がそうだと思うのなら、今 OIC におられても、インターネットで聞いていても、あなたに良い知らせがあります。イエスの助けはあなたにも差し出されています。しかし、「新しく生まれなければならない」とイエスはおっしゃいます。

2. 新生は神の御業である。神が新しく生まれさせてくださる。—4-8節

ニコデモは尋ねます。新しく生まれて神の国に入るとは、どうやればできるのかと問います。ニコデモは、もう一度母親のおなかに入って生まれなおすのかと言って、イエスの話をはぐらかそうとしましたが、エゼキエル書に登場する、新しい霊を授けるといふ神の約束について知っていたでしょう。

エゼキエル36: 24-28

36:24 わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。 36:25 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、 36:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。 36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。 36:28 あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。

エゼキエル 37:14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入ると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、【主】であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。——【主】の御告げ——

ニコデモがエゼキエルの預言を知っていたなら、神ご自身が人の心に働く必要があることも知っていたはずです。

ピリピ 2:13 神は、みこころのままに、あなたがたのうち働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。

ヨハネ1:33 で読んだとおり、イエスは聖霊によって「バプテスマ」を授けるお方です。心が新しく生まれるのは、私たち次第ではないことがはっきりわかります。

それには、神の恵みの奇跡が必要です。神が私たちの心に働かれなければなりません。

5節で、イエスは水と御霊によって生まれることについて語られました。つまり、エゼキエルの預言を思い起こすよう促しておられるのです。

エゼキエル36:25-27は、メシヤ時代の新しい体制について語ります。そこには、聖霊によるきよめや満たしが示されています。イエスは、新しい時代がやってきたとニコデモにおっしゃったのです。イエスは、ご自身が来られたことで新しい時代の幕が開けたと暗に語られます。

8節で、イエスは風の例を挙げて話されます。当時も今も、宗教的な人たちが救いを型にはめようとするなら、風をつかまえようとするようなものです。人の努力は人の子を生み、聖霊だけが神の子を生むことができますからです。イエスはここで、語呂合わせもしておられます。風はギリシャ語で「ニューマ」、ヘブル語では「ルアク」です。この両方の単語が風とも霊とも訳せます。新生について、私たちにできることは一切ありません。これは、聖なる神のお働きです。神は、二千年前に十字架上でなされたイエスの御業を信じた人々の心の叫びに応えてくださるのです。神の働きは風のようなです。働きそのものは目に見えませんが、変えられたことによる効果は見ることができます。

ここで、クリスチャンになった日本人の方の証を紹介しましょう。

35年前、私はルース・パワーズ夫人が創立した高校大学の留学生受入プログラムをとおして、ランカスター市に来ました。このプログラムは現在、アメリカン・ホームライフと呼ばれています。ホストファミリーのサム・ナオミ・ストウファー夫妻は私に福音について教えてくれましたが、当時の私はスピリチュアルなことに興味がありませんでした。高校卒業後、2年間大学に行き、ニューヨーク市の大学に編入することにしました。ニューヨークでの15年間の生活の始まりです。ニューヨークに住んでいたころ、私はある問題を抱えるようになりました。幼いころから両親とうまくいかなかったつらい記憶に悩まされていたのです。

大学卒業後、不動産会社に就職しました。同時に、いろいろな人と出会って、お酒やドラッグが珍しくないニューヨークのライフスタイルを経験しました。最初は面白半分でしたが、どんどん深みにはまっていきました。お酒を飲んでつらい悩みや人間関係をまぎらわすようになりました。これではいけないと思ったときには、朝一番にひとりで飲むようになっていました。自分がアルコール依存症になっていることに気づきました。ニューヨークに住んでいたころ、私は毎年半年を日本で過ごしていました。どちらも飲酒には寛容な環境です。日本では、家族とのわだかまりを忘れるために飲みました。

この15年間のアルコールの過剰摂取が原因で、私のすい臓はぼろぼろになり、死ぬ寸前まで行きました。それでもお酒をやめられませんでした。何度も入退院を繰り返し、精神科やセラピストを訪ねました。悩みが解決できれば、お酒もやめられると思ったからです。けれども、精神科やセラピストのやり方は、私の不満をさらに募らせるものでした。結局またお酒に走ってしまいました。アルコール依存者のための自助グループにも参加しましたが、私には合いませんでした。

アルコール依存を解決できないまま、命にかかわる状態になるまで悪化しました。自分ではどうすることもできず、絶望しました。

2002年4月、私はどん底を経験しました。日本の親元を離れ、ニューヨークに戻りました。けれども、ニューヨークにいないべきではないとわかっていました。ふと、ホストファミリーにどうしても会いたい、あの場所に帰りたと思いました。ふたりに電話すると、翌朝早くにふたりがアパートまで迎えに来てくれました。私が心身ともにぼろぼろであることを、ふたりは察してくれました。自分で彼らの家に行くこともできないほどの状態だったのです。

ストウファー夫妻のもとに帰り、私は再びキリスト教について学ぶようになりました。それはただの説教や教えではありません。クリスチャンの心と生き方を彼らは見せてくれました。

2002年8月1日、私はイエス・キリストを受け入れました。ホストファミリー夫妻は、私のために23年以上も祈ってくれていたのです。

私は主を受け入れるのに、ずいぶん長い時間がかかりました。辛い目にもたくさん遭いました。これほど心が安らかになったことはありませんでした。今思い返すと、主が私を守り、救いへと導いてくださったのです。私は今、毎日主の力にあふれています。

私にとって特別なみことばは、使徒4：12です。「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」

2006年、主はすばらしい祝福を与えてくださいました。シングルのためのビーチ・リトリートで出会ったクリスチャン男性との結婚です。私たちの聖なる結婚を主に感謝しています。トッドといっしょに信仰の成長を遂げ、イエスの光として用いられることを感謝します。

神さま、あなたの大きいなるあわれみと恵みと愛を感謝します。

3. 新生は、神の御子をとおしてのみ可能である。新しいいのちを受けるには、そのお方を信じなければならぬ。—9-15節

9節で、ニコデモは「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか。」と言いました。つまり、興味を持ったのです。イエスはどうか答えられたのでしょうか。キリスト教に興味がある人に、私たちは何と答えるのでしょうか。これはとてもよい質問です。では、イエスがどのように答えられたか見てみましょう。

1. みことばがあるのだから、わかるでしょう。イエスは、ニコデモに旧約聖書のみことばを示します。そこに答えがあるからです。答えは常に聖書の中にあります。
2. イエスは、ニコデモが知っているであろう旧約聖書の描写を指し示します。さおの上の蛇の話です。どんな話でしょう。では読んでみましょう。

民数記21：4-9です。

21:4 彼らはホル山から、エドムの地を迂回して、葦の海の道に旅立った。しかし民は、途中でがまんができなくなり、21:5 民は神とモーセに逆らって言った。「なぜ、あなたがたは私たちをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはこのみじめな食物に飽き飽きした。」21:6 そこで【主】は民の中に燃える蛇を送られたので、蛇は民にかみつき、イスラエルの多くの人々が死んだ。21:7 民はモーセのところに来て言った。「私たちは【主】とあなたを非難して罪を犯しました。どうか、蛇を私たちから取り去ってくださるよう、【主】に祈ってください。」モーセは民のために祈った。21:8 すると、【主】はモーセに仰せられた。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる。」21:9 モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけた。もし蛇が人をかんでも、その者が青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きた。

さおの上の蛇は、念力のトリックではありません。神はイスラエルの民が神を信じていることを示す機会を与えてくださったのです。イスラエル人が蛇にかまれたら、青銅の蛇を見上げるだけで傷が癒えます。見上げることで、その人は主が約束を守ってくださるといふ主への信仰を表します。

さて、蛇にかまれた人が青銅の蛇を見上げなかったとしましょう。そして、周囲の人にこう言います。

「モーセじいさんももうろくしたものだ。あんな蛇を見上げるだけで毒蛇にかまれた傷が治るなんて、頭がおかしくなったのだろう。そんな話、信じない。」

その人は死んでしまうでしょう。原因は、蛇にかまれたことに加えて、神を信じなかったことです。神は「信仰」を受け入れてくださいますが、不信仰を裁かれます。

また、神について持っている知識に基づいて、神は私たちに責任を課せられます。知っていることに基づいて、裁かれます。これは知っておくべき大切なことです。ニコデモはみことばをよく知っていました。ですから、責任がありました。みことばを知る私たちにも責任があります。

次に、イエスとニコデモの出会いの最終部分に進みます。

4. 信仰の必要性と人が信仰を拒む理由。—16-18節

イエスは、神の国に入るカギは、神の御子を信じることだとニコデモに語りました。ここで、なぜ神の解決法を信じる必要があるのかが説明されています。

16-17節の主語は神です。神がしてくださったことのゆえに、信仰が必要なのだと語ります。

神は、愛という動機をもって行動されました。神に逆らう世を救うためです。神の行動は、神の御子を中心に行われます。神の御子の介入なしには、この世は有罪を宣告され、最終的には滅びます。しかし、神の御子の介入のおかげで、救いが可能となりました。

イエスは、9-14節で信仰について客観的に話しておられましたが、ここで、神の御子を唯一の解決策として信頼するよう求めます。この解決策は、罪深い人類のために神が与えられたものです。つまり、イエスをとおしてなされる神の御業を信じて受け入れることです。それは実在の人物を信じる信仰であり、実感できる変化をもたらします。皆さんはイエスを信じますか。

人は、人生や宗教にとことん失望し、どん底を味わわないとイエスを信じるという選択に至らないのかもしれませんが。

私は生駒に住んでいます。少なくとも週2回は地元のプールで泳ぎます。そこにはライフガードがふたりいます。ひとりは、監視台に座ってプール全体の様子を監視します。もうひとりは、プールサイドを見回りながら、掃除をしたり、私の妻にイヤリングは外してくださいと注意したりします。

ある日そこに、ちゃんと泳げない青年がやってきて、プールの真ん中で、「助けて！泳げないんです！溺れそう！」と叫んだらどうなるでしょう。

プールの真ん中は水深4メートルほどもありますから、当然足はつきません。プールにいる人は皆、ライフガードのほうを見るでしょう。けれども、ライフガードは動こうとしません。監視台に座ったまま、何もしません。少しして、監視台から降りると、プールサイドに立ちました。周囲にいる人たちは「あなたライフガードでしょ。あの人を助けてあげて。それがあなたの仕事でしょ！」と叫びます。ライフガードはそんな叫び声もどこ吹く風と聞き流し、ただ立って見えています。青年は助けを求めて叫び、腕をバタつかせていたせいで、息も絶え絶えで今にも溺れそうです。すんでのところで、ライフガードがプールに飛び込んで助け、青年は無事でした。プールの支配人は、このライフガードを支配人室に呼びつけました。支配人はライフガードをクビにしようと思いましたが、とりあえず話を聞いてやることにしました。ライフガードは言いました。

「自力では助かれないと自覚して、ライフガードの助けを受け入れる状態になるまで待っていたのです。」そして、泳ぐことのできない支配人に次のように説明しました。彼がライフガードの訓練生だった時、溺れそうになっている人を助けるのはたいへんだということがわかりました。

人は溺れそうになるとまずパニックになり、助けに来てくれた人の首をつかんだりするので、両者が溺れてしまいます。溺れている人が自力で助かろうとじたばたして体力を使い切ってから助けるのが得策です。そうすることで、無事救助することができるのです。ライフガードはクビにならずに済みました。これは、救いを説明するのにぴったりの描写です。

イエスなしに生きよう、自分の思ったとおりの生き方をしよう、といろいろ試してうまくいかないことがわかるまでは、人はイエスの声や聖書の教えに耳を傾けないのではないのでしょうか。聖書の教えとは、恵みによる救いです。この救いは、イエスが十字架上でなしてくださった御業を信じる信仰によって得られます。この救いだけが、私たちがこの世で生きる人生と死んでから始まる未来のための唯一の答えです。

最後に、イエスは、なぜ人が神の子を拒むのか語られます。

人が神の子を拒む理由—19-21節

神は人類のために御子を遣わしてくださいました。神がそこまでしてくださったなら、人はイエスを信じて受け入れるだろうと思うでしょう。けれども、実際にはそうではありません。なぜでしょう。

イエスはその理由を教えてくださいます。19-21節を新共同訳で読んでみましょう。

3:19 光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。 3:20 悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。 3:21 しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。

人の生まれつきの性質が取る反応は、神とその光から逃げることです。自分たちが神に従っていないことを知っているからです。信心深い人というレベルに留めておきたいのです。福音を拒むことは、文化や人種が原因ではありません。神に自分の人生をコントロールされるのが嫌だからです。国や言葉が違って、神の目から見れば私たちはみな救いを必要とする罪人です。

22-36節で、バプテスマのヨハネは、ここまでイエスがおっしゃったことは信頼できると証明します。

まとめ、適用、課題

1. 私たちがどれほど信心深く、良い人で、教会にしょっちゅう通っていても関係ありません。天国に行けるほど良い人はいません。神の目には、私たちの正義は汚れたぼろ布のようです。
2. 罪が赦されて、死後天国に行ける唯一の方法は、神がイエスを遣わし、私たちの罪のためにイエスが十字架上で御業を成してくださったと信じることです。罪のある者の代わりに、罪のない人が死んだのです。私たちが罪のある者で、イエスが罪のない人です。
3. イエスと神のみことばを拒む人は、それに逆らう人です。その不信仰の報いは必ず受けます。
4. 今日、皆さんがイエスを拒むことがありますように。心から神に助けを求めますように。イエスは人生の新しいスタートを切らせてくださいます。またよりよい未来をくださいます。二千年前に十字架上で死んで成就された御業のおかげです。

イエスが死なれたのは、私たちが赦されるためです。神の目から見て聖さ100点にするためです。イエスこそ、私たちの罪を取り除く神の小羊です。